

2023 年春季 参加報告書

参加プログラム：SMEAG(IELTS)

参加時の学年：1 年、学部：国際教養、学科：国際教養学科グローバルスタディーズ専攻

この短期留学の1 番の目的は IELTS のスコアを上げることでした。そのため毎日の授業に参加したのはもちろんですが、夜のスパルタクラスが終わった後に課題やその日学んだ内容の復習を行ったことで短期で全てのスキルが上達したと感じました。特にスピーキングは普段の生活の中で、他国籍の生徒と交流する機会がたくさんあり、積極的に会話をすることでお互いの国についてや IELTS に対する意識など意見交換する事ができたため自分の英語に自信がつくことに繋がりました。また生活面ではトイレやシャワーなど日本の生活とは異なる点が多く、食堂の衛生環境もあまり良くなかったため慣れるまでは辛いと感じる事もありましたが、実際に現地の人達の生活を見たり先生から賃金についての話を聞くと、他の国に留学し自分の学びたい勉強をできるという事がいかに恵まれているか身をもって感じ、ここでの1 カ月間を絶対に実りあるものにしようというやる気で乗り切る事ができたと思います。そして寮での生活において、各部屋の光熱費は使いすぎると追加料金がかかってしまうためルームメイトとエアコンをつける時間帯や、最後に寝る人が全てのブレーカーを落とすなど話し合っただけでルールを決めたことで快適に過ごすことができました。同じ部屋で生活を続けているとお互いの体調や気持ちの変化にも気づくこともできるため、それぞれのちょっとした気遣いによって何度も助けられました。この体験を通して、自立や協力的に生活する大切さを学んだだけでなく、創意工夫をすることで普段の生活はいくらでもよくすることができると感じました。

休日は主に近くのモールへ行き買い物をしたり少し遠出をして観光名所を見に行ったりしていましたが、タクシーから見える街並みは貧富の差を感じる場所が多く、ストリートチルドレンや路上で生活している人を見かける場面も多々あり、いまだに発展途上である事が印象的でした。しかしこれらの事は日本においては決して気づくことができなかった事であると感じ、日本で生活していた頃とは違った価値観を持つことができるようになりました。特に買い物やタクシー利用後の支払い時において、大きすぎる額を出してしまうとお釣りが出せないと言われてしまう事や、飲食店でドリンクを頼む際に水や氷に注意しなければなりません。このような場面で不満を抱くのではなくこの国の特色や文化として受け入れる考え方を身に着ける事ができたと思います。

最後に1 カ月という期間はとてもあっという間でしたが精神的にも身体的にも大きく成長できる機会がたくさんありました。毎日早朝6 時4 0 分からの授業が始まり夜の8 時3 0 分まで勉強をする事は、きつと感じる日の方が多かったですが、必ず自分の成果に繋がると言い聞かせて勉強に励んだことで気持ちのマンネリ化を防ぐことができ、先生からの様々なアドバイスも全て受け止めて自分のものにした事で、この先大変な事でも前向きに取り組む姿勢を大切にしていこうと考えるようになりました。この短期留学で培った事はこれからの学生生活の色々な場面で生かしていきたいと思います。